

# 漢字指導の新しい試み

川 口 義 一

## はじめに

本稿は、1987-88年度の早稲田大学国際部<sup>1)</sup> J4 クラス春学期において実験的に行われた漢字指導の新しい試みについて紹介し、その成果と問題点を考察するものである。この指導法が「新しい」と言い得るのは、それが次の三つの教授法上の概念とテクニックを同時に組み合わせた指導法だからであり、筆者の知る限りにおいて、漢字の指導にこのような複合教授法が応用された例は過去の文献で紹介されたことがないからである。

- (1) 漢字を従来の部首とは直接関係のない図形的な構成要素に分け、要素間の位置関係をイメージとしてとらえるよう指導する。具体的な指導としては、学生に黙想しながら漢字の形象をイメージさせる。また、漢字を「目をつぶったまま書く」ことを要求する。
- (2) 漢字の筆順や構成要素の形を筋肉と皮膚の感覚(kinesthetic sense)を通じて習得させる。具体的な指導としては、漢字を書く練習の際に特定の運動と呼吸法を学生に行わせる。また、ノートに書く前に、自分の手の平や額、級友の背中などに指で漢字を書かせる。
- (3) 学習対象の漢字を自然な(authentic)用例の中で提示するように

---

1) 早稲田大学国際部は、本学と提携関係にある米国の公立・私立大学の学部学生を留学させる学内機関であり、学生はほとんどがアメリカ人である。日本語は必修科目であり、取得単位は学生の所属校での卒業単位に振り替えられる。日本語クラスはJ1からJ6まであり、学生はプレイスメントテストの結果にしたがってクラス分けされる。大学歴はアメリカのそれに倣い、毎年9月から翌年6月までである。

し、教材として新聞・雑誌・広告・漫画などを多用する。具体的な指導としては、学生に当該漢字が使われている文脈がどのような話題のものであるかを考えさせる。また、学習予定の漢字が使われている印刷物を探して持って来させるという課題を与える。

以下、筆者が担当したクラスの指導の実際を紹介し、学生の反応や指導の成果を略述する。このような指導法の理論的根拠については、紙幅の都合上、稿を改める。

#### 1. J4 クラスの授業構成

筆者の担当した J4 クラスは、1987 年 9 月 7 日から始まった秋学期(12 週 120 時間)とそれに続く冬学期(6 週 60 時間)において、早稲田大学語学教育研究所編の『外国学生用日本語教科書 初級』を終了し、1988 年 4 月 4 日から 6 月 24 日までの春学期(12 週 120 時間)には同じく語学教育研究所編の『日本語読本 中級』の 1・4・5・18 課を学習したクラスで、終了時のレベルは中級入門段階程度と言える。筆者は、秋・冬の両学期においては J5 の担当であったが、担当教員編成の事情で J4 を週に 4 コマ<sup>2)</sup>教えることになったものである。

J4 および J5 の中級段階のシラバスでは、漢字語彙<sup>3)</sup>の増加が図られており、そのために教科書とは別に漢字学習用の教材を用意しているが、外国人向けに編集された市販のものでは、網羅的過ぎて現在の時間的条件の中では消化しきれず、持ち運びにもハンディでないため、学習研究社が日本人小学生用に編集した『ハイトップ 漢字』(学年別配当の教育漢字

---

2) 国際部の日本語クラスは、90 分授業が週に 5 コマあるが、一つのクラスが午前の組と午後の組とに分けられており、学生は、他の講義との時間関係を調整のうえどちらの組に登録してもよいことになっている。したがって、担当教師にとって実際の授業時間は 10 コマであり、一日に同じ内容の授業を 2 コマずつ教えることになる。筆者の担当した 4 コマというのは、このような形態の週 2 回の授業である。

3) 本稿で「漢字語彙」というのは、漢語および漢字で表記し得る和語の総体を表す。

教材)のシリーズを1987年から使用し始めている<sup>4)</sup>。この年度のJ4では、同シリーズの4年生用のもの(漢字数195字)が教材として選ばれた<sup>5)</sup>。筆者の担当した4コマの授業は、この教材を使用した漢字語彙専門クラスである。残りの6コマは、もう一人の担当講師が教科書やVTRを使って教える読解や聴解のクラスであるが、漢字クラスとそれ以外のクラスは、教授内容の面で互いに独立している。

1987-88年度のJ4には、12名の学生が登録した。全員が漢字圏の文化的背景を持たない学生であり、国際部入学前の日本語学習歴は2年から6か月程度、中国語などの学習歴もなく、新しい漢字指導法の効果を測るにはちょうどよいグループであった。

## 2. 教材の使用

本稿の「0. はじめに」挙げた、今回の指導法の三つの主要概念のうち、(3)は使用した教材の扱い方に関するものである。第3節以下に詳述する漢字の書き方指導の前提事項として、本節でまず、クイズ類を含めJ4漢字クラスの教材について説明しておく。

この漢字クラスの主教材は、前述のとおり、学習研究社の『ハイトップ漢字』4年生用であるが、この教材は1ページに5個の漢字が提出されているので、この五つを1コマの学習項目とした。『ハイトップ漢字』の任意の1ページは、すべて[図1]のようなレイアウトになっており、当該漢字の読み・筆順・用例が示されている。筆者は、漢字の意味の習得のためには用例を具体的に示すのが効果的であると考え、各ページに

---

4) 筆者の指導経験から判断すると、日本人小学校向けの漢字教材をアメリカ人大学生の漢字教育に応用するのは好ましいことではないが、学生のニーズにあった教材を開発するまでの暫定手段としては止むを得ざる選択であろう。

5) 小学校4年生配当の教育漢字を選んだのは、J4の春学期始時までの既習漢字の難易レベルが小学校3年生配当のものに近いという印象からのことであるが、その印象が正確なものであるかどうかについて根拠にするべき調査は行われていない。





挙げられているような用例の中から、日本で生活している成人日本語学習者の学習語彙として適切なものを選び、それが実際に使用されている文脈を各種の印刷物の中から探し出してきてそのコピーを副教材として学生に配布した。たとえば、[図 1] のページにある〈芸〉の字の用例「芸(芸当の意味)」の文脈としては [図 2] (出典省略。以下同)を配布した。挙げられている用例に好ましいものがない場合はより適切な別の用例を、挙げられているもののほかに適切な用例がある場合にはそれを、それぞれその使用文脈とともに示すようにした。たとえば、[図 1] の〈給〉の用例としては、「給与」を取り上げてその文脈(紙幅の都合で本稿では割愛)を示したほか、「日給」「支給」を用例に付け加え [図 3] のような文脈<sup>6)</sup>で提示した。特定の漢字が使われている文脈を全体として提示するため、コピー教材として配布するものは、当該の漢字の用法の部分だけでなくその前後 1 ページ分程度の部分すべてとした。したがって、[図 2] [図 3] の教材とも、学生には本稿に示すとおり形で配布されている。

学習項目とする漢字を選定するうえで工夫したのは、学生に自分が学びたい漢字を探し出させてくることである。これは、自分の周囲で手に入る印刷物の中から興味のある漢字を探し出し、それが教材中の未習の漢字の一用例であれば、その印刷物のコピーとともに提出させるものである。この教材は提出された次の授業時間の学習項目の一部となり、そのかわりに当日予定されていた『ハイトップ 漢字』の五つの漢字のうち一つをこれと置き換える。『ハイトップ 漢字』の [図 1] のページを学習したときは、同じページの学習項目〈臣〉は、学生が前の週に提出した「中央」の〈央〉(同教材 (p.109 所載) と置き換えられた。[図 4] は学生が「中央」の文脈として提出した印刷物<sup>7)</sup>である。

6) この例は「日給」の使用文脈を探す過程で「支給」を同時に発見し、後者を学習項目に加えたものである。このような使用例は、一つの漢字が意味的に関連した語句の構成要素として現れ、特定の語彙グループを形成するという現象を説明するのにはなはだ好都合である。

7) [図 4] は、大学対抗の弓道トーナメントの会場案内である。この資料を提供



**機ワイエム産業 横浜支社**

神奈川県横浜市磯子区磯子2-8-9 第612ビル2F 〒220 ☎(045)316-8580

展示場パトロール、展示場作り

**日給20,000円**

**即日支給**

**展示場**

**パトロール**

**20名**

◎二人一組の  
簡単な仕事です

◎うれしい  
現金収入!!

**個室寮**

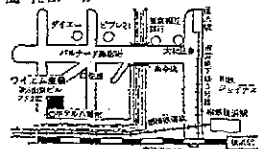
**2食付**

**撮影現場担当**

**横浜駅西口前**

**■募集要項**

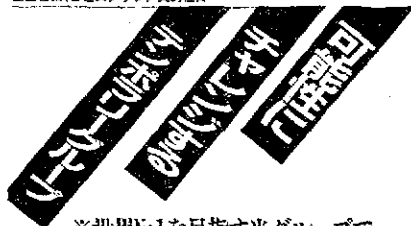
- ① 既婚・未婚・既婚可
- ② 20歳以上 経験・学歴一切不問
- ③ 市内近郊17万+高給優遇給
- ④ 各種社会保険完備
- ⑤ 10:30~18:30 実働6時間
- ⑥ 週休2日あり
- ⑦ 昼持参、食料に会社下さい
- ⑧ 相模原、Uターン優待3分
- ⑨ 住宅メーカー



**デポラリーエター**

東京都目黒区目黒3-2-3 目黒デポビル3F ☎(03)506-2593(本社)

企画営業(自社スタッフ) 契約社員



※世界No1を目指す当グループ  
あなたの能力を発揮しませんか!



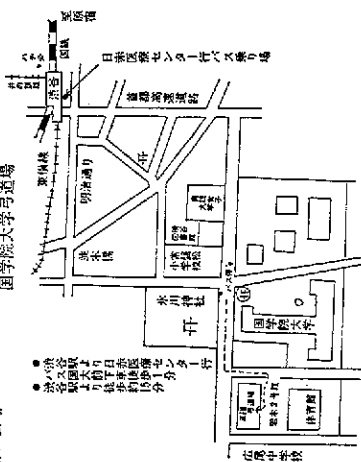
- 期間はご相談に応じます(3ヶ月、6ヶ月……)
- 企業の人材担当に当社のサービス内容を尸する仕事です。
- 正社員登用制度も有!
- 導入研修もありますので安心です。

**■募集要項**

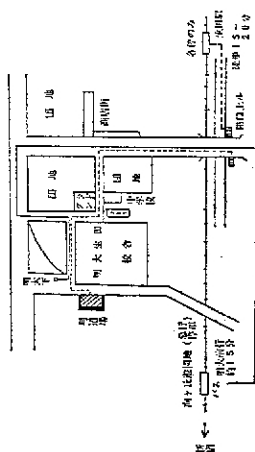
- ① 企画営業(自社スタッフ)
- ② 高卒以上25才迄 営業経験者歓迎 2部21時可
- ③ 9:00~17:30
- ④ 例 20才 ⑤ 157,500円以上
- ⑥ 例 25才 ⑦ 189,000円以上
- ※経験・年令等を考慮の上、当社規定により概選
- ⑧ 土日祝休、6割、完全支給、営業交通費別途支給、社員割引あり
- ⑨ 本社(目黒区)、横浜、日本橋、目黒区、渋谷、池袋、新橋、大手町、市ヶ谷、横浜、区内
- ⑩ 人材派遣業 第13-01-0038
- ⑪ デポラリーセンターのグループ会社
- ⑫ ⑧内勤1分、特給、夜ノ15分、賞ノ3分

**☎(03)561-2868**

国学院大学弓道場



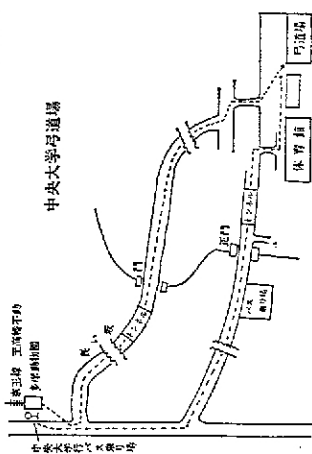
喪領六條



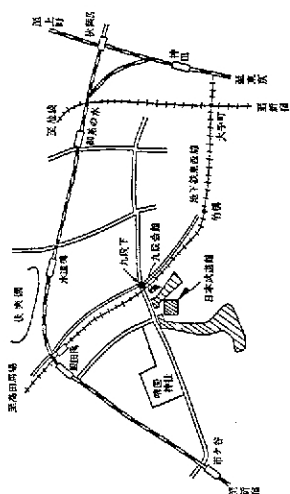
## 明治大学弓道場



## 第七会场



圖內探場全



学生が提出してきた漢字を含め、1コマで学習する漢字はつねに5個に限定し、漢字の用例として示される語句は、漢字1個につき平均二つ<sup>8)</sup>、全部で10例とする。この10例は、学生にとって必修とし、次の漢字クラスの始めに行われる「漢字クイズ」に出題する。漢字の意味の説明上、この10例以外にも用例を示すことがあるが、これはクイズの対象にはしていない。したがって、1コマの漢字クラスは、基本的には5個の漢字とその用例10例の導入および前回学習分の漢字のクイズによって構成されている。クイズに10～15分ぐらいを要するので、1時間15分ほどでその日の学習項目を消化しなければならないが、筆者の経験ではこれで時間的にはちょうどいいか少し足りないという感じである。

クイズの形式は、つねに [図 5] [図 6] に示したようなプリントのペアになったものである。[図 5] が解答用紙で、問題はつねに (1) 漢字読み、(2) 漢字書き、(3) 短文作成および (4) おまけで構成されている。問題 (1)～(3) は必解、(4) は随意解答の問題である。(4) のような問題を作ったのは、たまたま当日の出題に答えられなくても、既習の知識を利用すれば得点が可能なようにして、クラス外の漢字学習の動機づけを強化するためである。この方法は、教師にとっても、学生の学習状況や既習事項の定着度を測るうえで、有益な情報を与えてくれる。[図 6] は問題 (1) および (2) の解答のてがかりを与えるもので、すべて授業中に配布する副教材の一部を集めてコピーしたものである。採点は10点を満点とし、読みの間違いは-1点、字形のわずかな誤りは-0.5点というように減点法で採点した。なお、問題 (4) の解答は、字形と読みまた意味のどちらかが正

してくれた学生は、弓道部の部員として中央大学の弓道場に出かけており、自分の思い出の場所を同じクラスの他の学生にも示したかったとのことである。このように個人的な生活体験から抽出された漢字の用例は、レキシカルな意味以上の意味を当該の語句に与え、それによって用例を発見した当人ばかりでなく、他の学生にも漢字認識の特別な手掛かりを作り出すことになる。

8) 使用頻度の高い、あるいは造語力の強い漢字は用例を3ないし4例出し、そのため他の漢字の用例は一つにすることもままあった。[図 1] のページでは、〈穢〉の用例を三つ用意し、〈老〉および学生提出の〈央〉は各1例ずつとした。

## Kanji Quiz

氏 名 \_\_\_\_\_

- (1) Read the underlined part on the SHIRYO (資料) sheet.

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_

- (2) Write the word in parentheses in KANJI.

- ① あそこにある大きな \_\_\_\_\_ は、エアコンです。  
(きかい)
- ② わたしのワープロの \_\_\_\_\_ は、NEC の〈NWP-5N〉です。  
(きしゅ)
- ③ \_\_\_\_\_ (for the context, see ⑥ in the 資料 sheet)  
(きのう)

- (3) Make a sentence using the word given.

- ① 芸 : \_\_\_\_\_
- ② 給 与 : \_\_\_\_\_

- (4) If you learned any other KANJI in the last lesson, write them here and give each of them its reading and / or its meaning. Make a sentence using any of them, if possible.

### 図 5

しい場合 +1 点を与えて減点分を相殺した<sup>9)</sup>。

テストの形式は、クイズのそれと若干異なり、[図 7] に示すようなものである。問題 (1) は必解、(2) は解答随意ながら正解の場合は得点できる<sup>10)</sup> こと、クイズの場合と同じである。問題の漢字を含む「資料」は、[図 8] のようなものが 3 枚与えられる。筆者は、このテストを一種の実力

9) 問題 (1)~(3) で満点のうえ問題 (4) でも得点すると 100% 以上の得点となる。このような得点を記録した学生は 4 人であった。なお、問題 (4) を利用して得点した学生は計 8 人おり、この得点を生かそうとする傾向が見られる。

10) ただし、得点分は単純に加算せず、最終成績を出す際の参考資料とした。



# Kanji Test

氏 名 \_\_\_\_\_

- (1) Find any KANJI on the SHIRYO (資料) sheet that you know, copy them one by one on the column ①—②④ and write its reading in the parentheses.

① _____ ( )	⑬ _____ ( )
② _____ ( )	⑭ _____ ( )
③ _____ ( )	⑮ _____ ( )
④ _____ ( )	⑯ _____ ( )
⑤ _____ ( )	⑰ _____ ( )
⑥ _____ ( )	⑱ _____ ( )
⑦ _____ ( )	⑲ _____ ( )
⑧ _____ ( )	⑳ _____ ( )
⑨ _____ ( )	㉑ _____ ( )
⑩ _____ ( )	㉒ _____ ( )
⑪ _____ ( )	㉓ _____ ( )
⑫ _____ ( )	㉔ _____ ( )

図 7-1

テストであると考えるところから、クラスの時間中教材で扱ったもの以外の漢字語彙を解答にしてもかまわないこととした。「資料」にする印刷物は、クラスで副教材として配布したものを使用するが、そこに出てくる漢字のすべてをクラスで学習したわけではない。たとえば、[図 8] は〈賞〉という漢字を「賞品」という用例で示すために使ったものである。実際には、「中央」「産業」「記念」「選んで」「必要」「連続」などの漢字語彙が〈賞〉導入の段階ですでにクラス内で学習済みのものであるが、これらをすべて復習してから「賞品」に移ったわけではない。したがって、学生にとって [図 8] のような「資料」は、親しみはあるが新しい課題にもなっているのである。この年度の J4 の学生には、このテストをもって期末試



- (2) If you remember any other KANJI of the past lessons, write them here, give each of them its reading and make a sentence using it.

① _____ ( )	⑦ _____ ( )
_____	_____
② _____ ( )	⑧ _____ ( )
_____	_____
③ _____ ( )	⑨ _____ ( )
_____	_____
④ _____ ( )	⑩ _____ ( )
_____	_____
⑤ _____ ( )	⑪ _____ ( )
_____	_____
⑥ _____ ( )	⑫ _____ ( )
_____	_____

図 7-2

験とし<sup>11)</sup>，成績評価の一助とした。

### 3. 漢字クラスの指導手順

本節では，漢字クラスの具体的な指導手順を紹介する。[注 (2)]でも述べたように，国際部の日本授業は，同じ J4 なら J4 のクラスを午前と午後に分けて教えるので，以下の指導手順は一日 2 コマ同じように繰り返される。午前クラスと午後クラスに出席する学生が異なるので，まったく同じように指導できたとは考えられないが，クラスによって指導手順に大幅な変更があるようなことはなかった。

まず前回学習分の漢字についてのクイズが済んだところで，その日の学

11) 12名の学生のうち所属校の大学歴の事情で早期帰国する学生2名のために，この期末試験と類似したテストを作成し，全員に成績評価の対象にすることを明言して受けさせた。したがって，早期帰国者以外は2度の期末試験を受けたことになる。



期間 **5/1~6/18** (土)

7+週+間

毎週毎週 **10,000** 名様  
7週連続総計 **70,000** 名様に

素敵な賞品をプレゼント!

下記の6つのコースの中から好きな賞品を選んで応募ください。各コース2,100名様、合計12,600名様に抽選で素敵な賞品が当たります。さらに、もれた方の中からセカンドチャンスとして、FKオリジナルバーカーを57,400名様に。総計70,000名様にプレゼントいたします。

郵便はがき

100-41

恐れいりますが  
40円切手を  
貼ってください

東京中央郵便局局留

日本たばこ産業株式会社

「マイルドセブンFK

誕生記念キャンペーン」係行

ご希望のコース1つに○をつけ、全票事項を黒色ボールペンで枠内に記入してください。

希望コース	A	B	C	D	E	F
-------	---	---	---	---	---	---

姓 名	〒 都道府県
住 所	
氏 名	
電話番号	

年 齢	性 別	男	女	職 業	
-----	-----	---	---	-----	--

No. 06

<b>A</b> マイルドセブンFK賞 2,100名様 FKオリジナルサイクルギア(各賞品) ご希望の商品に番号を記入してください。	<b>B</b> マイルドセブン賞 2,100名様 ナショナルファッションデホン	<b>C</b> マイルドセブンライフ賞 2,100名様 FUJII 35mmコンパクトカメラ(各賞品)
<b>D</b> マイルドセブンセレクト賞 2,100名様 FM-AMラジオ格闘台	<b>E</b> マイルドセブンメンソール賞 2,100名様 クーラーバック&ランチセオ	<b>F</b> マイルドセブンインターナショナル賞 2,100名様 ホーミーアワイングラスセット デュニャババ(各賞品)

セカンドチャンス  
57,400名様



FKオリジナルバーカー

未成年者の喫煙は禁じられています

※賞品のデザインは変更する場合がございますので、お申し込みのときよりご注意ください。

図 8

習予定になっている教科書ページを開けさせるが、このときに学生が提出した漢字と教科書の漢字を差し替え、また次週以降のクラスに使える漢字を探してきた者には、それを提出させる。

次に、その日の学習項目となった漢字の初めのものを板書し、その字1字の基本的意味とそれが語句として使われた場合の意味がどのように派生するかなどを、教科書に挙げられた用例などを利用して簡単に説明する。漢字の用例は、副教材である印刷物のコピーを配布してから示すので、この段階では簡単に紹介するにとどめる。この際、同時にその漢字の音訓の読みも板書するが、その読みを持つ語句が適当な学習項目でないと判断した場合は、教科書にあっても教えず、学生にも覚える必要のない旨伝える。

続いて漢字の書き練習を行うが、この部分が本稿「0. はじめに」に挙げた指導法の主要概念のうち(1)(2)と関係するところである。書き練習を行うときは、まず学生を立たせて、身体の緊張をほぐし筋肉や皮膚などの運動・接触感覚(kinesthetic sense)が十分に働くように柔軟体操<sup>12)</sup>を行う。体操終了後は呼吸を整えさせ、板書してある学習項目の漢字のほうに向かわせる。続いて当該漢字をいくつかの構成要素に分解させる。この「構成要素」はいわゆる偏や旁であってもよいし、その他視覚的にまとまりのよい形ならば何でもよいこととし、学生に自由に意見を出させながら最終的には構成要素をできるだけ少ない数にまとめる。次に黒板に正正方形を一つ画き、それを区分けして分解した構成要素がその中に収まるようにはめこんでいく。たとえば、[図1]のページにある〈機〉は、[図9]のように④～⑤の要素に分解され、正正方形の中の区分に書きこまれる。この区分を提示する目的は、漢字を構成要素の位置関係のイメージとしてとら

12) 体操はどのような種類のものでもよいが、筆者は、サジェストペディアで言う「儀式化(ritualization)」の効果を狙って簡化24式太極拳を取り入れた。太極拳は身体の緊張と弛緩のバランスを感じさせるのに適した運動であるとともに、漢字と同様中国文化の一部であるところから「儀式化」の効果も強化されるようである。

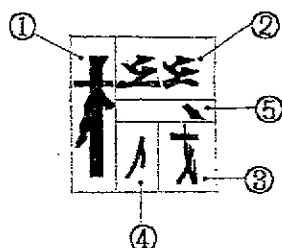


図 9

えさせることであるため、正方形中の字形は、[図 9] のように若干デフォルメされる可能性がある。しかし、この段階で各構成要素の形や構成要素間の関係が説明される。[図 9] の例では、①の木偏が独立した〈木〉よりも縦に細く右側の斜線が短いこと、③の斜線が②の中間を貫いて通ること、⑤の点は正方形の範囲外へ打ってもかまわないことなどについて、このときに学生の注意を喚起しておく。

構成要素の位置関係を確認したところで、一つ一つの要素ごとに教師について書く練習をさせるが、ノートや教科書の書き順の欄に書くのではなく、学生を立たせたまま各自の目の前の空間に特定の呼吸法に従って書かせるのである。教師は、学生と向かい合って立ち、先に板書で示した当該漢字の構成要素を一つずつ鏡像にして書く。こうすれば、学生は教師の書き方をそのままマネればよく、教師も学生の書き順や表情がはっきり見えるので、指導上好都合である。書くときには、まず深く息を吸い、次に息を吐き出しながら当該要素を筆順に従って書く。書き終えたときには、手を静かに降ろすと同時に残りの息をすべて吐き出す。続いて、目を閉じて、頭の中に今書き終わった要素のイメージを作らせる。線の長短・ハネの有無・点の位置など、形の上で注意すべき特徴については、学生が頭にイメージを描いているときに注意し、よりシャープなイメージが持てるように指導する。当該漢字の構成要素すべてについてこの過程を繰り返すわけであるが、要素数の多い漢字の場合は、一度すべての要素の書き練習をしてから、さらにいくつかの要素を組み合わせたより大きい単位の書き方

を練習する。たとえば、前述の〈機〉の場合は、①～⑤の要素の練習のあとで③～⑤の部分を組み合わせた形を練習し、さらにそれを②と組み合わせて旁の〈幾〉のイメージを確かにし、最終的には一息で〈機〉を書くように練習する。

このあと、学生各自の体の一部(手の平・額・モモの表側など)に練習した漢字を頭の中のイメージから呼び出して書かせてみる。これは、空中に大きくイメージした字形を小さくまとめて書く練習になっており、紙の上書きつける段階のイメージがここで定着するものと思われる。そのあと、学生を二人ずつペアにして、うち一人にもう一方の学生の背中に練習した漢字を指で書かせる。これは、他の学生に自分の字形をチェックしてもらう練習であり、背中に書かれているほうの学生は字形や筆順について相手にコメントするように指導<sup>13)</sup>する。これで、ほぼ字形に対する認識ができあがるので、次に学生にチョークを持たせて黒板の前に立たせ、目をつぶったままで練習した漢字を書かせる。始めのうちは、自信のあるものだけに名乗りをあげて出て来させるが、次第に全員が同時に書くように指導する。黒板に書かれた漢字を全員で見て批判し、不備を指摘された字形を書いた学生は再び黒板のところへ出て来て、今度は目を開けて他の学生のよく書かれた漢字を参考にしながら正しい字形に書き改める。一つの漢字の書き練習は、これですべて終了する<sup>14)</sup>。

書き方の練習が終わってからは、学生を着席させ、前述の副教材を使って<sup>15)</sup>用例の説明をする。まず教材の中に問題の漢字が使われているかどうか

13) 教師は、このとき、注意深く観察しているだけで、コメントをしないほうがよいと思われる。学生は予想以上に正確な批判をするし、同じ学生同士のコメントのほうが教師からのものより心理的に受け入れやすいからである。

14) 教科書に単独で挙げられている漢字のほか、その漢字の用例中に組み合わせて使われている漢字すべてをこの方法で練習する。

15) 副教材は、学生の人数の半分だけ作り、二人で一枚を見させるようにする。こうすると、互いに助け合い意見を出し合いながら教材の内容を検討するので、課題の解決が効率よくなる。なお、J4には独立して課題と取り組みたいタイプ学生もいたため、その学生のためには別に1枚のコピーを準備した。

か調べさせるが、そのまえにあるいはそれと同時に当該の副教材のコピーはどんな印刷物のコピーであるかについて意見を言わせる。たとえば、[図 3] の教材の場合はこれが求人広告誌の 1 ページであることを、「社員」「仕事」のような語句や年齢・金額・時間などの項目から判断して分らせる。印刷物の性格が分かってからは、そういう内容の印刷物としてそれまでに理解できた事柄のほかどんな情報が含まれているはずかを、学生の常識から考え出させ、それを示す語句を探させたり指摘したりする。こうして副教材の内容が概観されてから、学習項目となっている漢字を探し出させる。たとえば、[図 3] は〈給〉のための教材であるが、クイズの課題とする「日給」「支給」のほか「固定給」「能率給」「高給」のような語句を探し当てることができる。このような作業を通じて、学生は、学習する漢字の使用される文脈全体<sup>16)</sup>から学習漢字の意味や意味の派生状態を理解することができる。このあと、次の漢字の書き練習に移り、この過程を学習項目ごとに繰り返して 1 コマの授業を終了する<sup>17)</sup>。

#### 4. 成果とまとめ

今回の漢字指導の試みは、漢字の字形の認識・記憶の心理的および生理的側面を活性化させること、ならびに談話的文脈による漢字語彙の意味理解を定着させることを主眼としたものである。教授法的には、前者が本稿冒頭に挙げた (1) (2) と、後者が (3) と、それぞれ対応する形で実現されたわけである。学生 12 名・1 学期間のみの実験であったため、十分なデータが蓄積されたとはいいがたいが、今後の指導を考えるうえでいくぶんかの示唆的な結果が出ていることは注目してよからう。

16) 文脈全体を示すことは、言語生活の一部を示すことにもなり、そのまま異文化理解を促進することにつながる。[図 3] の例では、このコピーを取った求人広告誌をそのまま学生に見せ、日米の求職状況の相違についてディスカッションを行った。漢字の教育は、この方面からもさらに研究されるべきであろう。

17) 漢字の学習は各自の関心に応じた主体的な活動であることを認識させるために、未習の漢字の用例を提出する(学期中各自 1 回)ほかには、一切の宿題を課さない。

まず、書きの面については、字形に対して持っているイメージが実際の表記に影響するようであることが観察された。[図 10] は、それぞれクラスの中で字形が最もきれいな学生〈学生 A〉と最もくずれている学生〈学生 B〉の表記例で、〈学生 A〉は左二つ、〈学生 B〉は上二つがそれぞれ目を閉じて書いたものであるが、目をあけて書き直したものとの差がそれほど大きくないということが分かる。これは、学生個々が感じている漢字の外形的な印象(曲線的だとかゴチャゴチャしているとか)が実際の表記に反映する<sup>18)</sup>ことを示唆するものではないか。とすれば、正しい字形の導入は、入門期から始める必要があるだろう。

漢字の語彙としての学習の面では、まず周囲の漢字語彙に対する関心が高まったということがあるが、当然その関心は学生個々によって対象分野の異なるものである。[図 11] は、学生の提出して来た漢字語彙の用例をすべてコラージュにして終了作文集の表紙にデザインしたものであるが、おなじような文脈から取られてきたものがほとんどないことが分かる。これは、学生の語彙学習に対する自立性、すなわち、与えられて覚える学習から探し出して自分のものにする学習への質的転換を示すものと思われる。一方、漢字語彙の具体的用法についての関心が高まると同時に、個々の語句の意味を全体の文脈の中から抽出しようとする態度が生じてきた。これは、中級段階での速読技能習得の前提になるものとして大きな意義を担うものである。

以上のように、漢字の字形について正確な認識を持たせることや漢字語彙を具体的文脈から放さず導入することは、今後の初級段階の漢字指導研究の新しい課題となろう。これによって、漢字は、言語の構成要素の一と

---

18) 筆者は、1988年11月、米国オレゴン州ポートランドの公立高校の日本語授業を参観した際、本稿で述べた方法によって日本語学習開始1年目と2年目の学生に〈鬱〉の字を指導してみたところ、各15名程度のクラスの学生のほぼ全員が正確な字形を目を閉じて書くことができた。これは、漢字の字形についての印象が固まっていない学習者の字形認識力がより柔軟な対応を示すことの証例ではないかと思われる。

機

機

機 機

械 械

機  
械

機 械

機 械

機 械

圖 10



**卒業アルバム** 比較文化学専攻 協賛

**個人写真撮影週間**

**異国体験と日本人** 比較文化精神医学から

**栄光通信**

**米道、来月3日会談**

**子供の異文化体験** 人格形成過程の心理人類学的研究

**夏の思い出を今すぐ書き残そう**

**6月～9月 出版**

**留學生も 法被姿に** 「楽しい」と大喜び

**参加賞** 第24回東日本大学空手道選手権大会

**早稲田大学国際学部** J 4 作文集 1987-88

**担当：佐藤 正子** 北條 啓子 (秋・冬) 川口 義一 (春)

**89姫路シロトピア博** 1989年3月18日—6月4日/会場：姫路城周辺

**夏休みの思い出を今すぐ書き残そう**

**米道、来月3日会談**

**子供の異文化体験** 人格形成過程の心理人類学的研究

**6月～9月 出版**

**留學生も 法被姿に** 「楽しい」と大喜び

**参加賞** 第24回東日本大学空手道選手権大会

**早稲田大学国際学部** J 4 作文集 1987-88

**担当：佐藤 正子** 北條 啓子 (秋・冬) 川口 義一 (春)

**89姫路シロトピア博** 1989年3月18日—6月4日/会場：姫路城周辺

図 11

して、日本語教育上にしかなるべき位置を与えられることになるものと思われる。

#### 参 考 文 献

佐藤喜代治編『漢字とは』(漢字講座1)・1988・明治書院。

佐藤喜代治編『漢字と日本語』(漢字講座3)・1988・明治書院

ハルペン・ジャック『漢字の再発見』・1987・祥伝社

佐々木正人『からだ：認識の原点』(認知科学選書15)・1987・東京大学出版会

日吉秀陽「呼吸による漢字の書き方指導法」〈学会ニュース〉39号・1987・日本語教育学会

渡辺 茂『漢字と図形』(NHK ブックス 264)・1976・日本放送出版協会